

23 駒止湿原（田島町・昭和村）



コバイケイソウ、ヒオウギアヤメ、ニッコウキスゲなど。また樹木ではズミ、レンゲツツジ、シャクナゲなどが咲き、この時期は野鳥も活発になり、アオジ、コルリ、クロツグミ、キビタキなどが盛んにさえずり、湿原の上空ではオオジシギがけたたましく鳴きながら飛び、ノスリが獲物を探して飛んでいる。

カッコウも湿原内を飛び回り、時折枯れ木の梢で尾を振りながら大きな声で鳴く姿も見られる。

環 境

駒止湿原は会津田島町の西方14km、駒止峠（標高1150m）の手前、田島町と昭和村の境界となる分水嶺域に、10個にあまる湿原が点在し、国指定天然記念物になっている。代表的な湿原は南から大谷地、白樺谷地、水無谷地で、湿原植物は尾瀬ヶ原に共通するものが多い。

湿原周辺の樹林帯はブナ帯に属し、二次林が主であるが一部原生的な樹林も残されている。湿原周辺部に見られる樹木はブナ、ダケカンバ、ウワミズザクラ、ナナカマド、低木ではレンゲツツジ、ウラジロヨウラク、ハイヌツゲなどが生育する。

季 節

駒止湿原の春は5月に始まる。未だ残雪があるが、駐車場に降り立つとさっそくミソサザイやオオルリの声が迎えてくれる。駐車場から大谷地湿原までの林からはウグイスの大コーラスが聞かれ、その姿を間近に見ることもある。湿原ではミズバショウやショウジョウバカマ、リュウキンカなどの花が見られる。木道沿いではウグイスやホオジロの声に混じって、カラ類やキツツキ類、ゴジュウカラなどの声が聞こえてくる。

6月から8月にかけて、湿原は多くの花が咲き競う。

大谷地をぬけると開拓道路にでる。左に行くと白樺谷地、水無谷地へと続く。時間のない方は、右に行くと駐車場に着く。開拓道路周辺でもヒバリやツバメ、オオジシギなどが農地で見られ、時にはハリオアマツバメ、ワシタカ類の飛翔も堪能することができる。

交 通

車利用。田島町から針生を抜け右手の旧道に行く。春は道路の除雪を確認の上出かけるとよい。

